

# 事務事業評価表

平成13年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(750)8030
担当部課名	生涯学習部	博物館	課	学芸班
事務事業名	博物館協議会経費		事業コード	15110

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	7年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

博物館法第20条、相模原市立博物館条例第14条、同施行規則第13条～第16条
--

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
市民が博物館運営に参加する場であり、博物館運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。法では置くことができる任意設置を述べているが、本市の場合は必置として、市民参加の場を積極的に保障している。		学校教育や社会教育の現場に関わる人、学識経験者、市民公募で構成される。	
		対象数	10人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
平成12年度と13年度は博物館が収集する資料とその保存のあり方について協議を重ね、まとめに提言「資料収集と保存のあり方」をいただいた。 1 協議会の開催 4回、委員(非常勤特別職) 報酬 @12,600×延べ35人分 441,000円 旅費 費用弁償 @960×4回分 3,840円 @900×2回分 1,800円 需用費 食料費@300×延べ46人分 13,800円 2 委員委嘱替えに伴う公募委員選考委員会選考謝礼 報償費 @10,000×2人 20,000円		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名なし	
		計画年次 年度～ 年度	
		なし	

4 評価指標

指標名	提言率	遂行率
指標式	提言書の提出ができたか否かで、1または0で表す。	提言に対して実現できた、あるいは現在実現するために進行中の事項の数/提言書に盛り込まれた提言事項の数×100
指標設定の意図	協議会を常に活性化し市民の声を反映する場とするために、協議の内容をまとめ提言書、あるいは意見書として公表する。任期の2年間を周期とする。	提言を受け、どの程度館運営に反映されたのかを判断する。

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	1		a 1	b 1		
指標	76		c 83	d 100		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	463	406	481	450	461
	人員・時間数	3人・80時間	3人・80時間	3人・80時間	3人・80時間	3人・80時間
	人件費	1,004	1,004	1,004	1,004	1,004
	その他経費					
	合計	1,467	1,410	1,485	1,454	1,465
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 91.7%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b}$	$\frac{1.0}{1.0} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d}$	$\frac{83.3}{100.0} \times 100 = 83.3\%$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$		
理由:	提言書に盛り込まれた提言事項の数24のうちで実現できた、あるいは現在実現するために進行中の事項の数が20である。残りの4事項については今後、取り組みを着実にいき成果が上がるようにすることが必要である。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	委員構成を情報公開の観点から市民公募としたり、男女平等の社会参加の観点から女性の構成比率を高めるなどの配慮をしている。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	年4回開催する会議への委員報酬、費用弁償及び会議の賄いだけであり、経済性・効率性は高いといえる。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	協議会は、館長が館運営について委員に諮問する場であり、代替の可能性はない。むしろ、積極的に活用し意見を求めていく必要がある。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A:満足できる	理由:	会議は委員の各立場から活発に意見をいただき協議を進めている。毎回の会議結果は情報公開をしたり、また、協議でだされた意見、提言は博物館ニュースで広報するなど市民の満足は得られているものと判断している。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	生涯学習の推進が上位施策である。博物館を生涯学習の場にふさわしくするためには協議会の活性化を上げることができ、出された協議会からの意見を真摯に館運営に反映していくことが生涯学習の推進につながる。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> 市民の声を博物館運営に反映するために、博物館協議会のより良いあり方を求める必要がある。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<b>説明:</b> 経費は委員報酬、費用弁償及び会議の賄いだけであり、改善の余地は少ない。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	最小の経費で最大の効果を上げる観点に留意し、今後も継続して当該事業に当たりたい。	
	今後の進め方			
	<input checked="" type="checkbox"/>			継続
	<input type="checkbox"/>			見直し
	<input type="checkbox"/>			廃止
<input type="checkbox"/>	完了	説明		

8 二次評価における変更点

--